



# みどり



## 142号『服薬アドヒアランス』

2020年1月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1  
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

あけましておめでとうございます。今年もより良い医療を提供できるよう職員一同取り組んでまいります。

\* \* \*

今月のテーマは「服薬アドヒアランス (adherence)」です。聞き慣れない言葉かもしれませんが「服薬コンプライアンス (compliance)」に代わる言葉として使用される場面が増えつつあります。

### 「服薬アドヒアランス」とは

医療の場におけるコンプライアンスとアドヒアランスはどちらも「患者さんが治療を受ける」という行為を意味します。両者の決定的な違いは、コンプライアンスが医療従事者から患者さんへの一方向の指導関係が基になっているのに対して、アドヒアランスは医療従事者と患者さんの相互理解が重視される点です。

医療における「服薬コンプライアンス」とは、「服薬遵守」の意味で、患者さんが治療者（医師）の決定に従い指示通り治療を受ける（服薬する）こと指します。医療の場においては長らくこの方針のもとに治療の決定と服薬指導が行われてきました。その背景には、医師（治療する側）の指示に患者さん（治療を受ける側）が従い治療が行われるものであるという考えが基となっています。この考えはともすると医療の

場においては決定権を持つのは医療者であり、患者さんはそれに従う立場にあるという考えに陥る可能性があります。

近年、医療の分野における医師-患者関係は変化してきています。その一つとして、治療のプロセスは医師と患者さんとの相互理解のもとに行われるもので、患者さんが自ら納得し参加するという考えが広まってきています。そうすることにより患者さんの QOL および治療効果の向上が期待できます。この「患者さんが治療方針を理解した上で賛同し、協力的に治療を受ける」ことを「服薬アドヒアランス」といいます。

\* \* \*

患者さん自身が疾患を理解し、治療方針の決定過程に積極的に参加し、その方針に沿って治療を受けることは、より高い治療効果を生み出すことにつながります。WHO（世界保健機関）は「コンプライアンスではなく、アドヒアランスを推進する」という方向性を 2001 年に示しています。そのため近年ではコンプライアンスよりもアドヒアランスという考え方が重視されるようになりました。

### 服薬アドヒアランス低下の要因は

服薬アドヒアランスの低下に及ぼす要因を表に示します。

## 表. 服薬アドヒアランス低下の要因

- 1) 社会的・経済的要因
- 2) 医療従事者と患者間の要因
- 3) 疾病の要因
- 4) 治療の要因
- 5) 患者さんの要因
- 6) 医療従事者の要因

## 服薬アドヒアランス向上のために

アドヒアランス向上のために、表に挙げたアドヒアランス低下の要因の具体例とそれらに対する取り組みや対処法の例を紹介します。

### 1) 社会的・経済的要因

仕事や通院手段の問題から通院が途絶えがちになることがあります。また、特に高齢の患者さんでは介護力不足が問題になることがあります。専門医が自宅から遠方の場合、かかりつけ医との連携を図ってもらうと通院回数を減らすことが可能になります。また介護保険などのサービス利用やジェネリック医薬品（後発品）への変更が介護や医療費負担の軽減につながる場合があります。

### 2) 医療従事者と患者間の要因

両者の間に良好な関係が築かれないとアドヒアランスは低下します。

両者の信頼関係を構築することがスタートとなります。その上で医療従事者と患者さんおよびその家族は疾患に対しての認識と治療目標を共有することが重要です。

### 3) 疾病の要因

自覚症状がない、もしくは乏しい疾患や慢性疾患は治療意欲が低下する傾向があります。

病院や薬局に置いてあるリーフレットは疾患や治療に対する理解を深める一助になりますのでご利用ください。

認知機能が低下する疾患では薬の自己管理が

不十分になりがちです。服薬カレンダーなどを利用して可視化を図ることが有効です。

治療効果が数値で示されるような疾患は、結果を継続的に記録することで治療意欲が高まります。

### 4) 治療の要因

内服薬の数が多いと包装シートでの管理が煩わしくなり、飲み忘れや飲み間違いの原因となります。内服薬の一包化が予防に役立ちます。

注射薬や吸入薬のように、患者さんご自身のみでの取り扱いが難しいものがあります。この場合、家族や介護者への技術的な指導が行われます。

副作用への懸念から治療意欲が低下することがあります。予想される副作用について事前に説明を受け回避・対処方法を理解・習得することが重要です。

### 5) 患者さんの要因

仕事で内服時間が不規則になりやすいなどの服薬時間の問題や、嚥下障害があって大きい錠剤が飲み込みにくいなどの問題があります。ご自身の生活環境や病状をできるだけ具体的に医療従事者にお伝えください。患者さんのライフスタイルや病状に合わせた内服時間、薬剤の形態変更の提案が可能になります。

### 6) 医療従事者の要因

医療従事者のコミュニケーション能力不足により、疾患や病状の説明、治療の効果・選択肢、副作用が患者さんに十分伝わらないことがあります。疑問や質問はためらわずにお尋ねください。

\* \* \*

良好なアドヒアランスを維持できるよう、当院でも個々人が研鑽を積み、各部門の連携がスムーズに行われるよう一層努力して参ります。

(文責：金子 由夏)